

町内を電気自動車が走る

超小型モビリティが運行開始

超小型モビリティ(電気自動車)運行事業のオープニングセレモニーが10月26日、平泉駅前で行われ、関係者らがテープカットをして運行開始を祝いました。

同事業は、東北では初めてとなる国土交通省の「超小型モビリティ認定制度」を受け、超小型モビリティを観光客や町民に無償で貸し出しします。

貸し出しされる車両は、乗車定員2人乗りの電気自動車で、4時間のフル充電で約100*の走行が可能です。普通免許があれば運転ができ、走行範囲は町内に限ります。詳しくは観光商工課(☎46-5572)までお問い合わせください。



テープカットで運行を祝う関係者

広域的発展を目指し

定住自立圏協定締結

10月25日、佐藤孝悟町副議長、丸山安四町総合発展計画審議会会長同席のもと、一関市と定住自立圏形成協定を締結しました。

この協定は、両市町の役割分担を明確化し、移住定住促進を図ることを目的としており、さまざまな分野で国からの財政支援を受けることができます。



協定書に署名する菅原町長と勝部一関市長



3,305人分の署名と宣誓書が手渡された

高齢者を事故から守る

交通安全母の会が署名活動

町交通安全母の会連合会(千葉千代子会長)が10月23日、「高齢者を交通安全から守るための誓い」を菅原町長に手渡しました。

この日は千葉会長ら3人が町長を訪問。千葉会長が誓いを読み上げ、町民3,305人分の署名とともに町長に手渡しました。

この取り組みは、交通事故に占める高齢者の割合が高いことから、交通安全の呼びかけと事故のない町を目指し、同会が中心となり活動を行っています。



小雨の中、稲刈りを行う参加者

雨にも負けず、稲刈り楽しむ

ライスアート稲刈り体験

第5回ライスアート稲刈り体験(農事組合法人アグリ平泉主催)が10月26日、長島地内の大区画ほ場で開催されました。

稲刈りには約150人が参加。あいにくの小雨模様でしたが、参加者は笑顔で「松尾芭蕉と曾良」の図柄を丁寧に刈り取っていました。作業後はおにぎりとお芋の子はっとう汁が振る舞われ、参加者は冷えた体を温めていました。

「大切な木」元気に育って!

「平泉古事の森」育成事業

文化財の修復に使う木材の確保や森林の保全に取り組む「平泉古事の森」育成事業が10月1日、奥州市衣川区の月山国有林で開催されました。

この日は、町内から平泉小4年生と長島小5年生、同市立衣川、衣里両小学校の4年生合わせて96人が参加。丸太を輪切りにしてヒバやケヤキの木の周りに敷き詰める地ごしらえ作業を行いました。参加した小学生は、ノコギリでの輪切り作業に苦戦しながらも、木の成長を願い一生懸命取り組んでいました。



ヒバの木の周りで地ごしらえ作業をする児童

文化遺産を次の世代へ

世界遺産の日説明会

県では、世界遺産平泉の日を実現させる会(元持勝利会長・岩手県商工会議所連合会)からの要望を受け、平泉が世界遺産に登録された6月29日を平泉世界遺産の日とする条例制定に向けた説明会を開催しました。

この条例は、平泉の文化遺産について、県民の理解を深め、適切な保存により、次世代へ継承するとともに、地域振興を図り人と自然が共生した社会を築くことを目的としています。順調に進めば、年度内に条例が議決される予定です。



役場で行われた説明会



会長表彰を受賞した千葉さん

長年にわたり社会福祉に貢献

千葉さんが会長表彰

平成25年度岩手県民生委員児童委員大会が9月19日、盛岡市民文化ホールで開かれ千葉榮男さん(11区)が県民生児童委員協議会会長表彰を受賞しました。

千葉さんは、平成12年4月から民生児童委員を務め、多年にわたり社会福祉事業に貢献されました。



福祉体験を発表する児童、生徒

地域福祉向上の機運高める

社会福祉大会開催

第21回平泉町社会福祉大会(平泉町社会福祉協議会主催)が10月1日、ホテル武蔵坊で開かれました。

同大会では社会福祉の発展に功績のあった方々へ表彰状が贈られたほか、福祉体験発表として町内の小中学生8人が、ボランティア活動や体験学習を通して学んだコミュニケーションや笑顔の大切さについて発表しました。

引き続き、前岩手県知事増田寛也さんが「どうなる日本、どうなる岩手」と題して講演。最後に大会宣言を読み上げ、地域福祉のさらなる充実と温もりのある福祉のまちづくりに向け、機運を高めました。